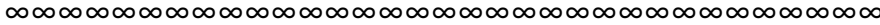


ささやま図書館友の会



会報 第48号 2022年4月発行



発行：ささやま図書館友の会

図書館を思う

原 哲夫

私は京都市から転居して二年六カ月が過ぎました。

私は本が好きで高校生の時から図書館に通っています。小学校の時も中学校の時も学校に図書室がありませんでした。それで家にあった本箱か棚から本を選んで読んでいました。その本は兄が読んでいたものです。『十五少年漂流記』『少年探偵団』などの本がありました。書店は家から四十キロほど離れた町にあったようです。父が出張の時に買ってきていました。高校にはりっぱな図書館があり、図書館司書の人がいきました。私は現代国語の副読本を参考にして小説を読んでいきました。

現代国語の教師が授業の中で、当時ベストセラーになっていた『挽歌』(原田康子作)について「あんなの釧路の風景と霧を背景に描いたらだれでも書ける」といいました。私は本当かと疑問に思い『挽

歌』を読みました。その小説は原田康子の卓越した文章力とストーリー展開のたくみさがあったからこそベストセラーになったと思いました。

その後には『挽歌』の舞台になった北海道釧路の大学に進学しました。受験のときに釧路駅に降りました。夕方であり薄暗くなっていたためか、寂しく感じました。石川啄木が詠んだ

さいはての駅に下り立ち

雪あかり

さびしき町にあゆみ入りにき

この短歌を思い出しました。専攻は理系の分野を選びました。大学にもりっぱな図書館がありました。ここでは、本を借りて読んだというよりレポート、卒論を書いたりして、自習室でした。

京都市で就職してからは勤務先の近くに市立図書館があったので本を借りて読みました。丹波篠山市に転居してくる一年ほど前に市立図書館



絵本『いいおてんき』ができるまで

◆講演会を開催しました◆
2021年11月20日、中野由貴さんを招き、絵本『いいおてんき』誕生までの道のりや、絵本に寄せた思いを聞きました。

館を見学にきました。りっぱな図書館があって安心しました。これからも利用したいと思っています。

作家さんの生の声を聞くのは、とても面白い体験でした。一冊の絵本ができるまでにこんなに長い時間がかかっているとは驚きました。

きっかけは2004年8月7日の夕刊に載っていたおじいさんと犬の写真記事だったそうです。深く心が動いた中野由貴さんは一つのお話をつくり、それが一人の編集者さんを動かし、思っていた絵本という形へ向かう。そこから絵を描く井上文香



左から、中野由貴さん、酒井菊代さん、井上文香さん、編集者の寺久保未園さん

さんとの出会い、モデルとなる畑探し。2006年6月30日、縁あって取材に訪れた丹波篠山の夏の畑との出会いが新たなお話を導くこととなり、2017年のもとも8月号「『いいおてんき』として発表されました。

その間、作家さん達は何度も何度も現地（モデルとなった酒井菊代さんの畑）へ足を運ばれ、自分の肌で感じた匂い、音、味、温度等々とても細かいところまで心を配り、こだわり、本物を届けようとしていきます。それは、無垢なこどもが見るものだから嘘があっ

てはいけないという作家さん達の優しくて強い意志であり、その事に深く感激しました。

作家さん、編集者さん、有機農業に取り組む酒井菊代さんの畑に対する熱い想いも伺い、しみじみ素敵な本だなと思いました。篠山に住む一人として、このご縁に感謝して大切にゆっくり長く広く読み継いでいきたいなと思います。
(星宗ゆり)

▼自然におはなしが出来たように感じましたが、菊代さんと菊代さんのお父さん 秀幸さんのふるさとの自然と畑と農業への熱い思いが、絵本のなかに溶け込んでいる様に思いました。

▼関東と関西の土の色が違うとは初めて知りましたし、お話もおもしろかったです 井上文香さんの絵はとても温かいですね、素敵です。

▼絵本ができるまでの長い道のり、そしてできた本をみると、とても愛しくなりますね。私は小学校に読み聞かせに行っています(今はコロナで停止中ですが)。子どもたちに読んであげたいと思います。

本の修理

開催日：毎月第2・第4金曜日
10時～12時30分
丹波篠山市立中央図書館 創作活動室

- * 日程は図書館玄関付近に掲示します。
- * 修理の道具は用意しています。
- * まずは見学からでもお気軽にお越しください。

おとなの本を読む会

4月21日(木) 10時～12時
丹波篠山市立中央図書館 創作活動室

- 『活きる』(余華/著・飯塚容/訳)
- * 課題本が手に入らない方はお薦めの本、今後読んでみたい本などをご紹介ください。
 - * 参加を希望の方は直接会場にお越しください。

友の会行事にご参加ください



2022年度総会のご案内

4月23日(土) 13時30分～
丹波篠山市立中央図書館 視聴覚ホール

1. 2021年度活動報告・決算報告
2. 2022年度活動計画(案)・予算(案)、質疑応答等
3. DVD 視聴 内藤和代氏の講演
『恵庭市における図書館運動について』

- ☆ 状況によっては予定が変更になる場合がありますので、ご了承ください。
- ☆ マスクを着用のうえご出席ください。

■ 欠席される方は委任状を提出してください。
(又は役員までご連絡ください)

令和3年度 丹波篠山市図書館協議会報告

第4回協議会（11月26日）

令和4年度の事業計画と予算要求の概要について協議しました。

（主な事業計画）

●「第2次丹波篠山市立図書館ビジョン」に基づき図書館事業を運営していく。

●蔵書は地域活動、特産物、ビジネス支援、行政活動など「丹波篠山らしさ」をPRする特色ある資料を収集し情報発信を行う。

●市民センター図書コーナーの図書の実施と専任司書2人体制を目指し、図書費の増額により、ニーズに対応できる図書館サービスを提供する。

●市民参加型の図書館運営として図書館ボランティア活動の促進。図書館ボランティアと連携するとともに、ボランティア活動の機会や場の提供等に努める。

●図書館と市内6カ所の配本所（多紀支所、ハートピアセンター、城東公民館、西紀支所、西紀分室、今田支所）とのネットワークにより、図書館の利便性の向上を目指す。

す。特に東部地区3カ所（多紀支所、ハートピアセンター、城東公民館）の配本所については利用を活性化するため、新たなPR手法を検討する。

*令和4年度には在架予約をネットでも行えるように検討し、さらに利便性が高まることを期待する。

●中央図書館と学校園との連携
図書館と学校園との連携を強化し、学校での読書活動や学校図書館の支援を行う。

図書館利用環境整備（中高生等の学生を対象とした学習スペースの設置、第3の居場所づくり）。

*来年度は図書館開館20周年の節目の年にあたり、次の10年に向けて一歩一歩前に進めていきたい。

第5回協議会（1月21日）

来年度は篠山市立図書館ビジョン策定から10年がたつ。計画期間が満了するにあたり図書館ビジョンの成果や課題を検証し、次の時代の変化に対応し市民ニーズに相應る図書館サービスの提供、図書館運営の方針を示す「第2次丹波篠山市立図書館ビジョン」策定のため図書館協議会を5回にわたり開催し協議を行ってきた。

策定に先立ち、昨年8月に図書館利用者、市民、ボランティア、企業にアンケートを実施し意見やニーズをビジョンに反映した。

基本理念を「本と出会い 人と

出会い 学びを楽しむ 知の広場」と定め、市民はいつでも、誰でも、どこに住んでいても図書館を利用でき、中央図書館、市民センター図書コーナー及び6カ所の配本所が市内全域をカバーするサービス網をより機能させていく、などの運営方針を定めた。

*第2次丹波篠山市立図書館ビジョンの詳しい内容は、図書館ホームページに公開されています。

（報告 中西文枝）

篠山市の図書館を考える 会と前川澄夫さん



1月27日前川澄夫さんが89歳で逝去されました。

前川澄夫さん（元大阪フィルハーモニー交響楽団ピオラ奏者・田園交響ホール参与）は「篠山市の図書館を考える会」の発足の要となった人でした。4町の合併の話

が進む中、有志で勉強会を立ち上げ、図書館について学習会をする中で、住民の意見をまとめ、どんな図書館を建てて欲しいか行政に意見を伝えていく組織が必要だという思いに至りました。

図書館についての知識も浅く、運動の経験もなく霧の中にいる状態でしたが、前川澄夫さんが能勢町図書館運営委員会委員をしていることが分かり、そこから前川さんに図書館についてお話を伺う機会を持ちました。

1999年4月「篠山市の図書館を考える集い」を開催しDVD「図書館の人々」を上映、前川澄夫さんに「ぼくにとつて本とはなにか」と題して講演していただきました。

会の参加者から「ぜひ図書館を建てて欲しい」と切望する声盛り上がり、背中を押されて「篠山市の図書館を考える会」発足の第一歩を踏み出しました。前川先生には新図書館開館後も交響ホールで開催されるクラシックコンサートに併せて解説していただく会（ふらっと音楽ぶらす本楽）を数回開催しました。前川澄夫さんの訃報を知り「図書館友の会」の活動を改めて振り返りました。ありがとうございました。（福山和子）

「製本・図書修理教室」
 (三木市立中央図書館)に参加して
 (10月4日～1月17日)

全8回という講座数に不安でしたが、三木市立図書館の熱心なボランティアスタッフのサポートも受けながら終えることができました。

「製本・図書修理の高い技術を学べる講座は、県内ではほとんどありません。この講座で

学んだことは、個人から学校・図書館まで幅広く活用できます」というのが講座のセールスポイント。講師の平野照子さん(元三木市立図書館職員)は平成22年より「NPO法人書物の歴史と保存修復に関する研究会」(奈良県)に参加し、製本に関する知識と技術を習得。平成23年修理ボランティアを立ち上げ、平成28年度より毎年「製本・図書修理教室」の講師を務めておられます。現在も三木市立図書館で図書修理ボランティアスタッフとして活動中。

当日は受講者の使用する道具や材料も事前に準備しており、映像

を使いながら分かりやすく丁寧に教えていただいた。欠席時の補講もしていただき、手厚いサポートに感謝。ありがとうございました。

後日、ボランティアの活動日に伺い、実際の作業の様子を見学しました。当日は8名ほどが熱心に作業中で、ボランティアの方々の修理の技術のレベルの高さに感心しました。時間をかけて丁寧にじっくり取り組む様子を見ることができました。(薦野多恵子・福山和子)



実習では一折中綴じ・ノート綴じ・テープ綴じの3冊を製本しました。

三木市立図書館
 図書修理ボランティア
 (活動場所と曜日)

中央図書館 毎週火曜日
 青山図書館 毎週火曜日
 吉川図書館 第3火曜日

活動人数 26名

(図書館ホームページより)

『はくぶつかんのよめ』



イザベル・シムレール
 文・絵 石津ちひろ 訳
 (岩波書店)

だれもいなくなった夜の博物館。展示ケースからいっぴきのきいろいチヨウがとびだしていきましました。ほかのチヨウたちも博物館を我が物顔にとびまわります。チヨウにつられて化石、恐竜の骨、動物のはくせい・やがて館内の展示物が動きだしました。青を基調とした幻想的な美しい絵に想像の世界

が広がります。博物館に行ってみてください。(Eシ)

『しろごな おきき』

モーゼス・ガスター文
 光吉 夏弥 訳 (岩波書店)

動物や鳥のお話は親しみやすく、さりげなく教訓をこめていますが押し付けがましさは感じません。どのお話も心の優しいさや勇気や知恵を働かせて困難を乗り越えていけば幸せをつかむことができることを教えてくれます。少しずつ読んであげてください。(G76カ)

おとなの本棚



『献灯使』

多和田葉子 著
 (講談社)

近未来、大災禍後の日本。大気も土壌も海も人体も放射能に汚染され、動物も植物も変異してしまっている。それだけではない、国家が独裁国家になってしまっており、常に監視の恐怖が付きまとい

ている。インターネットは遮断され鎖国が徹底されている。通貨に価値は無く、食糧の物々交換が最大の価値を持つ。北海道でだけ米と鮭が獲れるので、この2道県だけは国に対して圧倒的に優位に立っている。食糧不足で子供は小学生で歩行困難、中学生で車椅子。なのに、老人は死という能力を失って、生き続ける。

『お探し物は図書室まで』

青山美智子 著（ポプラ社）

登場人物は、東京の仮設住宅に住む曾祖父の義郎が曾孫の無名を養育している。おむつを替え（紙資源不足のため布おむつ）、正体不明のミルクを飲ませ（母乳も牛乳も汚染されている）、食べ物はずりつぶし、小学校へは自転車に乗せて連れていってやる。そして15歳になった無名を待ち受けている運命が「献灯使」。国禁を犯しても何とか未来をこ希う国際組織……。この作品の緯糸を近未来の物語とするならば、経糸は義郎の幼き者への無償の愛と、無名の愛おしさの物語であろう。私も現在孫を育てている。溺愛するわけにはいかない、親代わりに責任を持って育て上げなければならぬ立場として、特に共感したのである。

この作品は2018年全米図書賞を翻訳文学部門で受賞した。非白人とか女性とか尾ひれが付いて。でも私は思っている。日本では古来女性こそが文学の本流であったのにと。また今、コロナが起りウクライナが起った。この作品の凄さを思う。（Fタワ）

（岩瀬秀子）

街のコミュニティセンター・羽鳥コミュニティハウス。その施設の一角に「図書室」がある。職員は、司書を目指す新米職員としてアレンス担当の「小町さん」の二人。「図書室」にそれぞれの問題解決のためにやって来る人は、小町さんの独特の風貌と、カウンターの羊毛フェルトを作成している姿に思わずたじろぐが「何をお探し?」の言葉にぐっと吸い寄せられる。

いくつかのやり取りを経て、ハイスピードでパソコンのキーをたたき、目当ての本を打ち出してくれるのだ。小町さんは目的の本以外に、思いもよらない本と、「付録です」と羊毛フェルトのマスクコットを手渡してくれる。ここからお悩み解決への道筋へと繋がっていく。

一人ひとりの悩みに、「本」を介在として温かく寄り添う。それぞれの人生が愛おしく感じられる一冊だ。

◆巻末に作中に出てきた実在の本が紹介されている。（Fアオ）（蜜柑）

銅版画集 高城山

『丹波富士八景』

加藤昌男／制作

丹波篠山市在住の版画家で、ささやま図書館友の会の会員でもある加藤昌男さんが、昨年11月、自作の銅版画集『丹波富士八景』を市に寄贈されました。高城山の四季折々の美しい姿が精密な銅版画で表現されています。

（加藤さんのお話）

私は20年余り前に篠山に移住してきました。

我が家から高城山が望まれます。その富士山型の美しい山容を見ながら毎日過ごしています。

ただ美しいだけでなく、山上には明智光秀に攻め滅ぼされた八上城の遺跡が点在し、歴史ロマンを感じます。

四季折々、市内の各所から見た高城山を銅版画にしました。

『富岳三十六景』や『近江八景』等にちなんで『丹波富士八景』と名付け高城山を描きました。銅版画で描く現代の浮世絵のイメージです。

このたび、丹波篠山市に寄贈す

るに当たって、一冊だけの本として手作りいたしました。

*郷土資料コーナー（X1/00ノカ）にありますのでぜひ直接ご覧になってください。

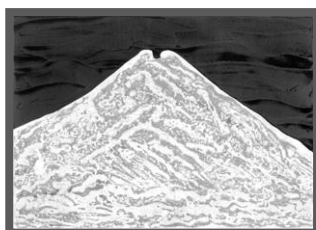


高城山・朝霧

↓ 高城山・桜華



↑ 高城山・暮雪



1月27日:令和3年度就任の丹後政俊教育長と懇談会を持ちました。(部長同席)

ささやま図書館友の会の活動について説明し、理解と協力を求めました。配本所の活用促進、学校図書館の環境整備、学校図書館支援員の配置などについてご意見を伺いました。

掲 示 板

篠山子どもの本を読む会からのご案内

児童文学と一緒に読みませんか？

奇数月の第4月曜、14時から
四季の森生涯学習センター東館
(変更の場合あり)

【今後取り上げる本】

- 5月・『レ・ミゼラブル』下巻(3月に上巻を取り上げました) ヴィクトル・ユゴー作/『コウノトリと六人の子どもたち』ディヤング作
- 7月・『きれいな絵なんかなかった』アニタ・ローベル作/『風の妖精たち』メアリ・ド・モーガン作
- 9月・『果てしなき戦い』ピーター・カーター作『ポリーとはらぺこオオカミ』『はらぺこオオカミがんばる』『まだまだはらぺこオオカミ』キャサリン・ストーリー作
- 11月・『水滸伝』上巻 施耐庵作『宇宙への秘密の鍵』ルーシー・ホーキング/スティーブン・ホーキング作 (参加希望の方は中西まで)

図書館が休館になります

5月9日(月)～19日(木)

蔵書点検等の作業のため

●最近ラジオを聴くようになり(聴き逃し配信で)、いろいろな楽しみができました。小説の朗読、癒しのピアノ音楽・懐かしのポップス・落語・浪曲などなど。

●新日曜名作座は昔と同じテーマソング(古閑裕而作曲)が流れびっくりしました。当時(中学生くらい?)布団の中で聴いていました。森繁久彌、加藤道子が複数の人物を声で使い分けていて、感心しながら聴いていました。

現在は西田敏行、竹下景子です。耳で聴く文学もいいものです。平和なればこそその楽しみです。

(F)

児童文学者の松岡享子さんが1月25日に永眠されました(享年86歳)。2019年3月に篠山市立中央図書館でお話の講座が開催され、直接ご指導を受ける機会を持ち大変貴重な経験をしました。没後には松岡さんが翻訳された数々の児童書を読んで育った方々のコメントが新聞に掲載され、「天声人語」でも取り上げていました。松岡さんが日本中に広めた、物語を子どもに語るストーリーテリングの活動は今もなお連綿と続いています。



Aさんの退職と図書館ビジョン

●図書館職員Aさんが3月末に退職されました。彼女は主に市民センター図書コーナーを担当され、車椅子でカウンターの外に出て常に書架を回り、利用者の声を聴き、気楽に話しかけてくださり親しみやすい図書館になりました。以前は「古い本ばかりで独自の取り組みがない」という声がありましたが、図書コーナーの雰囲気が一新され活気づき、利用者にも支持されていました。

●利用者のためにある図書館の職員の姿勢として特別なことではなく、自然な姿ではないでしょうか。

●ここ数年は非正規職員の離職が目立ち、正規職員の定期的な異動もあり、図書館の専門職としてのスキルの積み重ねができるのか心配します。このたび発表された「第2次丹波篠山市立図書館ビジョン」の基本理念「本と出会い 人と出会い 学びを楽しむ 知の広場」がどれだけ深められるのかと考えてしまいます。



談話室

●TV映像でウクライナの子どもがひまわりの絵を描いているのを見て映画「ひまわり」を思い出しました。一面のひまわり畑はウクライナだったのですね。ソフィア・ローレン、マルチェロ・マストロヤニ(主演)愛し合う二人の、戦争で引き裂かれた悲しい運命を描いていました。かつてウクライナで撮影された映画「ひまわり」(1970年)を上映する動きが全国各地に広まっているとのこと。どこまでも続くひまわり畑が印象に残っています。若い頃ご覧になった方もおられることでしょうか。心が痛みます。

●集会活動が難しくなり小学校のお話会も中止となりました。マスクをしてお話会は不便ですが子どもたちと顔を合わせてのお話会はひとつの読書体験です。新学期には通常通りの再開を願っています。